

ICHIHARA ART x MIX 2017

いちはらアート×ミックス2017



Greeting (Toward the Creation of New Values)

Joji Koide

Mayor of Ichihara City and Chair of the Ichihara Art x Mix Executive Committee

"Ichihara Art x Mix 2017" has come to a close smoothly. A total of more than 100,000 visitors from inside and out the city attended this event, which was staged at a "satoyama" (an area that lies between mountains and farmland) resplendent with rapeseed flowers and fresh green foliage.

The art festival featured appealing works mostly produced by artists who are active and based in Ichihara, with the fusion of modern art and regional resources serving as one of the themes. In addition to those works, this time the festival also featured a large number of participatory workshops.

I also had the sense that many visitors enjoyed this event as a "hometown art festival" that brought together creators, the region, residents and supporters through initiatives such as the "Kominato Railway 100th Year Project" commemorating Kominato Railway, which began operating in 1925 and is celebrating its 100th anniversary this year, collaborations with the region's traditional religious festivals, as well as through participation in various creative activities that featured hospitality kindly provided by the children and students of elementary and junior-high schools in the city.

Amid an increasingly complex and diverse socioeconomic situation, Ichihara City currently faces various challenges that include a declining population. We are in the process of pursuing initiatives aimed at overcoming these challenges, toward building a dynamic city that develops sustainably into the future.

I believe that coming into contact with, participating in, and experiencing art has the potential to help draw forth people's creative inspirations, and that connecting those ideas to various fields will create new values and a new era, and furthermore provide clues to resolving challenges.

In ancient times this region was home to the provincial government of Kazusa Province. And here, while utilizing art and in partnership with the people who are striving to promote a region they are deeply attached to as their hometown, I am moving ahead with creating a tourist city.

In closing, I would like to offer my sincere thanks to all of those who provided their support and cooperation, beginning with the artists who went to the effort of creating the works.

Exhibition Outline

Title: Ichihara Art x Mix 2017

Period: Saturday, April 8 to Sunday, May 14 (37 days without breaks)

Area: Southern part of Ichihara City, Chiba Prefecture

(From Kazusaushiku station to Yoro Keikoku station on the Kominato Line)

Organized by: Ichihara Art x Mix Executive Committee, Chaired by Joji Koide (Mayor of Ichihara City)

Supported by Chiba Prefecture, Chiba City, Kisarazu City, Mobara City, Katsuura City, Kimitsu City,

Yotsukaido City, Sodegaura City, Isumi City, Ichinomiya Town, Mutsuzawa Town, Nagara Town,

Chonan Town, Otaki Town, and Onjuku Town.

Cooperation by Kominato Railway Co.

Artworks : Art project participating Artists 31 pairs, Local project participants 54 pairs

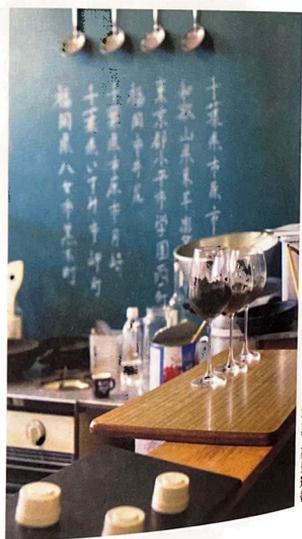
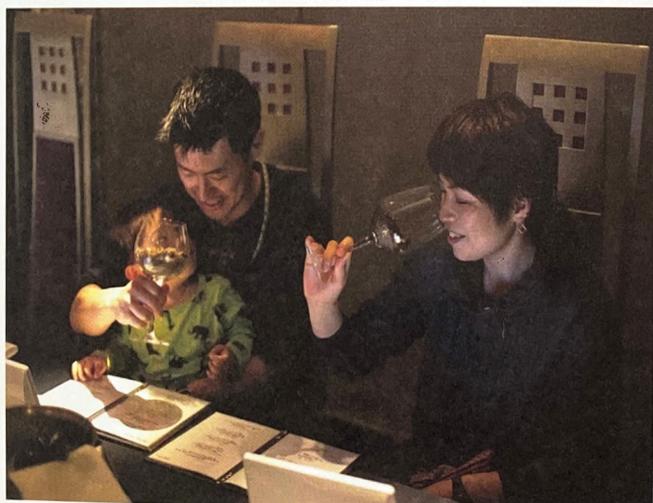
インデックス

あ	アコンチ・スタジオ	027
	磯崎道佳	047
	岩間賢	059
	内田未来カフェ	017
	岡博美	060
	岡田杏里	061
	小沢敦志	041, 082
	おにぎりのための運動会	050
	おもいでの家	097
か	カールステン・ニコライ	029
	開発好明	032, 039
	かこさとし	025
	角文平	044
	カルロス・ガライコア	085
	キジマ真紀	015
	木村崇人	028, 079
	栗田宏武	028, 083
	CLIP	085
	クワクポリョウタ	027
	KOSUGE1-16	026

さ	佐藤史治+原口寛子	049
	里山食堂	052
	塩月洋生	062
	鈴木ヒラク	098
	鈴木敦夫	063
	世界土協会	040
た	チョウハシトル	064
	豊福亮	019, 043
な	中井精也	095
	仲田絵美	048
	ニワコヤ	074
は	ハイボール・ガーデン	031
	風景と食設計室 ホー	066
	藤本壮介	031
	舞踏団トンド空静	068
や	吉田和司	042
ら	レオニート・チシコフ	046
わ	渡辺泰子	045

INDEX

A	Acconci Studio (Vito Accoci + Francis Bitoni + Julian Rose)	027
	An Athletic Meeting For Eating Rice Ball	050
B	Butoh Art Company TondeKarashizuka	068
C	Carlos Garaicoa	085
	Toru Chohashi	064
	CLIP	085
F	Sou Fujimoto	031
H	High Ball Garden	031
	H00. Landscape and food works	066
I	Michiyoshi Isozaki	047
	Satoshi Iwama	059
K	Bunpei Kado	044
	Yoshiaki Kaihatsu	032, 039
	Satoshi Kako	025
	Maki Kijima	015
	Takahito Kimura	028, 079
	KOSUGE1-16	026
	Hiromu Kurita	028, 083
	Ryota Kuwakubo	027
N	Seiya Nakai	095
	Emi Nakata	048
	niwa-coya	074
O	Hiromi Oka	060
	Anri Okada	061
	Omoide no le	097
	Atsushi Ozawa	041, 082
S	Fumiharu Sato + Hiroko Haraguchi	049
	Satoyama Restaurant	052
	Yosei Shiotsuki	062
	Hiraku Suzuki	098
	Atsuo Suzumura	063
T	Leonid Tishkov	046
	Ryo Toyofuku	019, 043
U	Uchida mirai cafe	017
W	Yasuko Watanabe	045
	World Dirt Association	040
Y	Kazushi Yoshida	042



世界土協会 | World Dirt Association [日本|Japan]

《Dirt Restaurant —土のレストラン—》

土に関心を持ち、制作を続ける3名のアーティストからなるアートユニットが、土を素材にした新たなレストランをイメージ。鑑賞者はワイングラスに入った土の匂いを嗅ぎ、色や形を見て、土にまつわるストーリーや採取者の経験を追体験する。調理方法の研究・試作を行う実験室(キッチン)も併設された。

会場：IAAES(旧里見小学校) 素材：土、食器、調理器具、記憶、香りほか

ごあいさつ(新たな価値の創造へ)

小出謙治
[いちほらアート×ミックス実行委員会 会長 | 市原市長]

葉の花や新緑に彩られた南部の里山を舞台に開催した「いちほらアート×ミックス2017」は、市内外から延べ10万人を超える方々にご来場いただき、無事に閉幕することができました。

今回の芸術祭では、現代アートと地域資源との融合をひとつのテーマとして、いちほらで継続的に活動されているアーティストを中心とした魅力あふれる作品展示に加え、多くの体験型のワークショップを展開いたしました。

また、大正14年に開業し、今年100周年を迎えた小湊鐵道を記念する「小湊鐵道100歳企画」や地域の伝統ある祭礼との連携、更には市内小中学校の児童、生徒たちによるおもてなしを含めたさまざまな制作活動への参加など、作家・地域・住民・サポーターが一体となった「おらがまちの芸術祭」として、多くの皆様にお楽しみいただけたものと感じております。

今、市原市は、複雑多様化する社会経済情勢の中、人口減少をはじめさまざまな課題に直面しており、これを克服し、将来にわたって持続的に発展する活力あるまちづくりに向けた取り組みを進めているところです。

私は、芸術に触れ、そして参加し体験することで人々の創造的な発想が引き出され、これが多岐にわたる分野へと繋がることで新たな価値や時代を創造し、ひいては課題解決の糸口にもなるのではないかと考えています。

悠久の昔、上総国の国府が置かれていたこの地で、アートを活用しながら、ふるさとをこよなく愛し地域の振興に力を注いでいる人々とともに、観光まちづくりを進めてまいります。

結びに、作品制作等にいただいたアーティストの皆様をはじめ、ご支援、ご協力を賜りましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

開催概要

名称：いちほらアート×ミックス2017

会期：2017年4月8日(土)から5月14日(日)までの37日間 [会期中無休]

時間：10時～17時

会場：千葉県市原市南部地域 [小湊鐵道上総牛久駅から養老深谷駅一帯]

IAAES [旧里見小学校]、月出工舎 [旧月出小学校]、内田未来楽校、
市原湖畔美術館、森ラジオステーション、いちほらクオードの森、旧白鳥小学校、
白鳥公民館、アートハウスあそびらの谷 他

主催：いちほらアート×ミックス実行委員会 [会長 小出謙治(市原市長)]

後援：千葉県、千葉市、木更津市、茂原市、勝浦市、君津市、四街道市、袖ケ浦市、いすみ市、
一宮町、睦沢町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町

協力：小湊鐵道株式会社

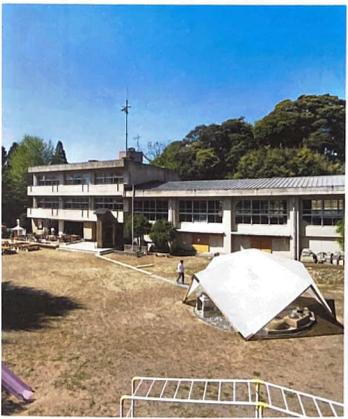
作品：アートプロジェクト参加作家 31組
地域プロジェクト参加者 54組

[凡例]

- 1 本書は、2017年9月30日現在の情報をもとに制作しています。
- 2 文中において、氏名の敬称は省略しています。
- 3 写真クレジットのない写真は、作家、芸術事務所の撮影によるものです。



月出エリア Tsukide Area



地域とアーティストと一緒に生み出す未来
 2007年に廃校になった旧月出小学校が、アーティストの芸術的
 のディレクションのもとで新たに生まれ変わった月出工舎。「遊・
 学・匠・食」をテーマに人の営みを通して、新たな世界観と知に
 よって、地域を創生することを目指し継続していく。今回は「月
 出の杜」をテーマに、いまから10年後の未来を多様な角度から
 とらえた作品が展開された。
 助成：公益財団法人 福武財団、公益財団法人 朝日新聞文化財団

岩間賢 | Satoshi Iwama [日本|Japan]
 《うたつち》 uta-tsuchi

月出の暮らしのなかにある先人からの知と技を継承し、山から拾い集めた「雫」をテーマにした野外彫刻
 作品を、旧月出小学校のプールに設置した。2014年の芸術祭で発表された美月の機能を持つ作品《蔵
 風得水》と共に、舞踏公演「ぼけのかわ」(→P.70)の野外劇場として展開された。
 会場：月出工舎 素材：土

いちほらアート×ミックスサポーター

「菜の花プレーヤーズ」

2014年に市原で初めて開催された芸術祭「中房総国際芸術祭いちほらアート×ミックス」。このボランティアサポーターとして発足し、今もアート×ミックスを支え続けているのが「菜の花プレーヤーズ」である。芸術祭に向けた作品制作や会場整備の手伝いはもちろん、会期が始まれば会場の受付や案内、閉幕後も地域の環境整備など、アート×ミックスのみならず南市原全体を盛り立てる活動を行っている。「菜の花プレーヤーズ」という名称には、「小さな花が集まって花を咲かせる菜の花のように、一人ひとりが主役であり、互いに力を合わせて花を咲かせたい。そして、参加者自身が楽しんでプレイしたい」という思いが込められている。

アーティストとの絆が深まる作品制作

アーティストが制作活動をするとき、地元住民と一緒に作品を創りたいと思うことはよくある。アーティストと菜の花プレーヤーズ、時には近隣町会や地域で活動する里山団体とともに作品を創りあげていく。そうすることで市原でしか創り得ない作品が出来あがる。菜の花プレーヤーズはアーティストの思いと地元の思いをつなぐ役割を果たしているといっても過言ではない。制作中にアーティストと直接関わることによって作品への理解が深まり、会期中も楽しく鑑賞ができると、この活動は好評だ。またアーティストにとっても制作中に触れ合ったサポーターたちは心強く、閉会式の歓談の中で作家とプレーヤーとが握手を交わす姿が多数見られたことも印象的だった。



会期中は受付でおもてなし

前回はサポーターの会場配置を事務局で決めていたが、その後のイベント「アートいちほら」からは自身で活動場所を選択するように変更。さらに、今回は家事に忙しい主婦や遠方からも参加しやすいような短時間お手伝いの「ちょこっとヘルプ隊!」、活動場所の指定を行わず事務局お任せにする「どこでも助っ人隊!」制度を導入。いろいろな会場を担当したいと思う人、ひとつの会場を極めたいと思う人、興味はあるけどフルタイムでは長すぎるといふ人など、それぞれのニーズにあった募集方法をとった。また、アーティストの行うワークショップの補助要員として活動するプレーヤーもいた。



そしてこれからも活動は続く……

いちほらアート×ミックスの目指す地域活性化のため、特に南市原の活性化のため、菜の花プレーヤーズは活動を続けている。2005年から継続して実施されている「花プロジェクト」(各市民団体と市が協力して小湊鐵道沿線へ菜の花の種をまく事業)へは、2013年から毎年、本郷地区への種まきを菜の花プレーヤーズが担当している。アート×ミックス作品のひとつである「森ラジオ ステーション」の維持管理のために地元住民による団体「森遊会」が立ち上がり、作品を守っている同所属のプレーヤーもいる。他の地域の芸術祭に足を運び、サポーター同士の輪を広げている者もいる。みんなの思いはひとつ、市原という地を盛り上げたい。そんな情熱を持った菜の花プレーヤーズ無しでは、いちほらアート×ミックスは決して開催できない。



さ



佐藤史治+原口寛子
Fumiharu Sato + Hiroko Haraguchi

2011年に結成したアーティストユニット。2人の中で生じるコミュニケーションとその齟齬について、遊びながら思考／試行し、映像作品を発表。

里山食堂 | Satoyama Restaurant

里見小学校の卒業生であるシェフたちによって前回の芸術祭の翌年、2015年春に開催した『アートいちからは2015春』から開店した食堂。



塩月洋生 | Yosei Shiotsuki

1973年宮崎県生まれ。宇都宮大学卒業。在学中より舞踏公演の舞台設計や製作に関わる。ストローベイル建築と出会い、2006年に食と住と人をつなぐ「はき掛けトラスト」立ち上げ、岐阜県白川町に移住。人間が自然環境に寄り添って生きていた里山を守り、無農薬のお米づくりを続けている。2011年からセルフビルドで自邸の建築に着手。
<http://ku-sumu.com>



鈴木ヒラク | Hiraku Suzuki

1978年生まれ。東京芸術大学大学院を修了後、シドニー、サンパウロ、ロンドン、ニューヨーク、ベルリンなど各地で滞在制作を行う。“描く”と“書く”の間を主題に、平面・インスタレーション・壁画・映像・パフォーマンス・彫刻など多岐にわたる作品を展開し、国内外でドローイングの領域を拡張し続けている。



鈴木敦夫 | Atsuo Suzumura

1981年岐阜県生まれ。2006年に東京藝術大学大学院壁画研究室修了後、ポーラ美術振興財団や吉野石膏美術振興財団の在外研修員としてイタリア国立ラヴェンナモザイク修復学校で学ぶ。世界遺産でもあるサンタポリナレ・ヌオーボ教会などへの保存修復に関わる。帰国後、歌舞伎座の舞台美術などを経て、現在はモザイクやフレスコ作家として創作、研究を行っている。
<http://atsuosuzumura.com>



世界土協会 | World Dirt Association

南条嘉毅、ジェームズ・ジャック、吉野祥太郎。それぞれに土に関心を持ち、制作を続けている3人のアーティストで構成されている。主な展覧会に『TIEAF2013 東京国際環境アートフォーラム』駐日韓国大使館文化院、『水と土の芸術祭2015』新潟市、『Dirt Stage 土の時間を育てる』S.Y.P. Art Space 東京 / 2016、『土のテイステイング』九州大学ソーシャルアートラボ / 2017など。
<http://arttokyo.sub.jp/wda>

た



チョウハシトル | Toru Chohashi

1979年神奈川県生まれ。多摩美術大学卒業後、デザイン事務所に勤務。出身地神奈川県での独立を機に、地域の方との出会いを求めて「やきいも日和」を設立。古き良き日本の食文化である「焼き芋」を継承するとともに、現代にマッチした新しい焼き芋を表現している。
<http://yakiiimo-biyori.com>



豊福亮 | Ryo Toyofuku

2000年株式会社 Office Toyofuku 創設。千葉美術予備校創立、学校長就任。美術に関わる人材の育成に取り組み一方、芸術祭を中心として自身の作品を展開。また、定期的に美術をテーマとしたワークショップを開催。自身の作品を発展させたものや、その地域の自然と触れ合い、交流を深めながら制作を行うものなど、さまざまな内容を展開している。

な



中井精也 | Seiya Nakai

1967年生まれ。東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)在学中に鉄道写真家の真島満秀に師事。2015年、第46回講談社出版文化賞写真賞受賞。



仲田絵美 | Emi Nakata

1988年生まれ。2012年、茨城県の実家を舞台に撮影した作品で公募展「1_WALL」のグランプリを受賞。2015年、母の遺品を写した写真集「さすが」(赤々舎)を刊行。

ニワコヤ | niwa-coya

「ニワコヤ」は、オーナーの笠原さん夫妻が民家を十月十日かけて改装し、東京・仙川にギャラリーカフェとしてはじめた店。店の表では野菜を売り、店内ではさまざまなジャンルの展示やパフォーマンス、映画祭など開催。仙川地回研究所として、地元地域の作成などにも取り組んでいる。
<http://niwacoya.com>

は

ハイボール・ガーデン | High Ball Garden

里見駅で活動するボランティア団体・喜劇俳優倶楽部が馴染茶を営業する土日祝の14時30分～17時の間でハイボールを販売。

や



吉田和司 | Kazushi Yoshida

1978年生まれ。2001年武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。四谷アート・ステュディオを経て、「使えなさそうで使えそうな事物」に関する道具性について作品を制作している。主な展覧会に「吉田事物屋 Remarks on the selected junk code」(路地と人)、「漂う道具 —Open and closed sequences—」(gallery feel art zero)、「Wandering series」(森岡書店)など。

ら



レオニート・チシコフ | Leonid Tishkov
[ロシア]

1953年生まれ。医師として働いた後に風刺画家としての活動を開始。2003年より月のシリーズ《僕の月》を開始。現代ロシア美術を代表するアーティストのひとり。

わ



渡辺泰子 | Yasuko Watanabe

1981年生まれ。2007年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油画コース修了。身近な素材を使って自分の居場所とほかに遠くの場所との距離感を問う作品を制作。



風景と食設計室ホー

H00. Landscape and food works

高岡友美と永森志希乃によるユニット。2012年3月より活動。「遠くの風景と、ひとさじのスープ。世界とわたしの手のひらは繋がっている」をコンセプトに、食を風景、文化、社会の切り口から捉え、その時その場所でしか体験できない食のインスタレーションを展開している。

<http://hooooo00000000-blog.tumblr.com/>
<http://www.facebook.com/hoo.landscapeandfood>

藤本社介 | Sou Fujimoto

1971年生まれ。東京大学卒業後、2000年に藤本社介建築設計事務所を設立。2014年仏モンペリエ国際設計競技最優秀賞を受賞するなど国内外で高い評価を集める。



舞踏団トンド空酔

Butoh Art Company TondeKarashizuka

2006年に富山県の酒蔵で旗揚げ。山里や商店街を舞台に、場所と人間との関係にこだわった作品を上演。主宰:松原東洋 / 演出:長谷川宝子 / 芸術監督:岩間賢 / 出演:濱田陽平、細井太、高橋英美、北澤香、ケンジル・ピエン、長谷川宝子、松原東洋、小野彰(明)、小野章(bass)、山本直樹(dr)、松本卓也(サクソ) / 特別出演:切腹ドストルズほか。
<http://tondekarashizuka.com>

ながら思考／試行し、

Restaurant

主であるシェフたちに
の翌年、2015年春に
はら2015春』から開

大学大学院壁画研究室修了後、ホ
術振興財団や吉野石膏美術振興財団の
在外研修員としてイタリア国立ラヴェンナ
モザイク修復学校で学ぶ。世界遺産でも
あるサンタポリナーレ・ヌオーポ教会などの
保存修復に関わる。帰国後、歌舞伎座の
舞台美術などを経て、現在はモザイクやフ
レスコ作家として創作、研究を行っている。
<http://atsuosuzumura.com>



tsuki

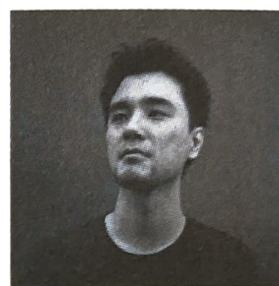
し。宇都宮大学卒業。
の舞台設計や製作に
イル建築と出会い、
をつなぐ「はさ掛けト
岐阜県白川町に移住。
り添って生きていた
のお米づくりを続けて
レビルドで自邸の建

世界土協会 | World Dirt Association

南条嘉毅、ジェームズ・ジャック、吉野祥太
郎。それぞれに土に関心を持ち、制作を
続けている3人のアーティストで構成され
ている。主な展覧会に『TIEAF2013 東京
国際環境アートフォーラム』駐日韓国大使
館文化院、『水と土の芸術祭2015』新潟市、
『Dirt Stage 土の時間を育てる』S.Y.P. Art
Space 東京 / 2016、『土のテイスティング』
九州大学ソーシャルアートラボ / 2017など。
<http://arttokyo.sub.jp/wda>

チョウハシトル | Toru Choha

1979年神奈川県生まれ。多摩
業後、デザイン事務所に勤務
奈川県での独立を機に、地域
会いを求めて「やきいも日和」
き良き日本の食文化である「焼
承するとともに、現代にマッチし
き芋を表現している。
<http://yakiimo-biyori.com>



豊福亮 | Ryo Toyofuku

2000年株式会社 Office Toy
千葉美術予備校創立、学校長
に関わる人材の育成に取り
術祭を中心として自身の作品を
定期的に美術をテーマとした
プを開催。自身の作品を発展さ
その地域の自然と触れ合い、
ながら制作を行うものなど、さ
容を展開している。

いちはらアート×ミックス2017

2017年11月30日発行

発行人：中西一雄 井上智治

監修：いちはらアート×ミックス実行委員会

編集：村上圭一[CBP]、梅田梓、吉澤茉帆、磯崎文香[美術出版社]

アートディレクション・デザイン：大西隆介、梶元勇季、沼本明希子[direction Q]

公式記録：村上圭一[CBP]

マップ：加藤亮介[日本デザインセンター 色部デザイン研究室]、河合理佳(P10)

英訳：株式会社アーバン・コネクションズ(P6)

印刷・製本：シナノ印刷株式会社

発売：株式会社美術出版社

〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町11-1 ラ・フェンテ代官山アネックス B1

03-6809-0318(営業) 03-6809-0542(編集)

<http://www.bijutsu.press>

ISBN : 978-4-568-50630-3 C3070

©2017, Ichihara Art×Mix Executive Committee

©BIJUTSU SHUPPAN-SHA 2017 Printed in Japan

著作権法上での例外を除き、本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、禁じられています。